



廃校を活かした「学校蔵の特別授業」が 広い視点から島の活性を考えるきっかけに

佐渡島の学校蔵で開かれている特別授業で、『里山資本主義日本経済は「安心の原理」で動く』(KADOKAWA / 角川書店)の著者である藻谷浩介さんと、佐渡の未来や日本の未来について学ぶ会に参加しました。島で著名な方のお話をうかがえるのは滅多にない機会。どうやって地域を活性化させていくか、地方でビジネスをするためには?など、とても有意義な話が聞けました。

普段の生活は、島のなかでもひとつの集落に

密着しているのですが、授業では「佐渡島全体を活性化させるためには」という広い視点で学ぶことができ、非常に参考になりました。また、この特別授業には、島外からもたくさんの参加者が来ていたので、島外の方に佐渡を見てもらう良い機会にもなったのではと感じました。(のどぐろちゃん)

学校蔵の特別授業

136年の歴史を持ちながら廃校になった旧西三川(にしみかわ)小学校を、佐渡の酒蔵・尾畠酒造が再生。2014年に「酒造り」「学び」「交流」「環境」を4本柱とした『学校蔵プロジェクト』をスタート。

